



アリとキリギリス

イソップ童話の「アリとキリギリス」をご存じの方も多いと思います。概要は、次のとおりです。

夏の間に、冬に備えて一生懸命働いて食べ物を蓄えていたアリと自分が楽しむことばかりをしていたキリギリスがいました。

やがて厳しい冬が訪れた時、アリは蓄えていた食べ物を食べて冬を越すことができましたが、キリギリスは食べるものがなく路頭に迷って冬の野原に消えてしまいました。

これは、勤勉さや努力であったり、見通しをもった生活をしたたりすることを教訓とした話として、私が幼少の頃に読んだ記憶があります。

しかし、昨今では路頭に迷ったキリギリスにアリが食べ物を分け与え、みんなで冬を越しました。キリギリスも自分の暮らし方を反省しましたというような幾分マイルドな内容になっているものもあるみたいです。

時代背景やコンプライアンス的なものもあるかとは思いますが、優しい世界線であると思いますが、見方を変えれば、「怠惰な生活を送っていても誰かが助けてくれる」、「特に努力をしなくても何とかなる」という見方ができてしまいそうです。

やはり、正当な努力を重ねた者が正しく評価され、要領だけで立ち回ることを是としないようにと思います。